



るもい風土資産カード

金浦原生花園

国道沿いの海岸を黄色い
エゾカンゾウが埋め尽くす

国道232号と日本海の海岸沿いに広がる金浦(かなうら)原生花園は、エゾカンゾウを中心とした固有植物が群生する天然のお花畑。昭和55年(1980年)に原生花園として町が指定しました。

6月～7月にかけては約5万8000㎡の広さに、2万5000本から3万本といわれるエゾカンゾウの花が咲き誇り、黄色いジュータンのような光景が広がります。晴天時には背景の日本海や利尻富士とのコントラストが見事で、訪れる人を魅了します。

金浦原生花園の「金浦」にはいわれがあります。かつてこの海浜はニシン漁業者によって村落が形成され、昭和20年代頃には数軒の大網元が君臨していました。ニシンが産卵のために浜に押し寄せる群来(くき)の季節には、内地(本州)方面からヤン衆と呼ばれる労働者を多数雇い入れ、陸(おか)働きのモッコ背負いの人夫として、近隣の若い男女も昼夜をいとわず働いていました。ヤン衆は1日4回の食事をしながら、海面が盛り上がるほどのニシンの大群に挑み、親方(網元)は一晩にして大金を手に入れました。遠別町史によると、昭和14年(1939年)に地名改正で金浦となったとありますが、当時は笑いの止まらないほどニシンの大漁の日々が続き、町の経済を支えてきたことが背景にあるようです。ニシンが姿を消してから40数年の歳月が過ぎ去った今、無人の地域となってしまった浜に、カズノコの黄金色のようなエゾカンゾウの花が咲き乱れるのも、何かの縁なのかもしれません。

見どころ

6月～7月にかけて、見頃を迎えるエゾカンゾウには「憂いを忘れる草」という意味があります。ユリ科の多年草で、正式和名はゼンテイカ(禅庭花)。朝方に花を開くと、夕方にはしぼんでしまうため、鑑賞は午前中がお勧めです。

ポイント

珍しい固有植物が群生する金浦原生花園は海岸沿いにあることから、花と海が織り成す撮影スポットとしても人気があります。黄色いエゾカンゾウの花の向こうに青い海と利尻富士を望む風景は絶好のシャッターポイントとなっています。

五感で感じる！風土資産の魅力

聴 触 味 嗅 知

触

エゾカンゾウの和名は蝦夷甘草。茎の先端に黄色のラッパ状の花をつけます。山地や高山、海岸の草地に群生するポピュラーな花で、北地では海岸沿いの草地や湿った平地に生えています。絨毯のように一面に咲く可憐な花に触れてみましょう。

嗅

海岸線沿いに広がる原野。エゾカンゾウの咲き誇る6月から7月にここを通過する誰もが、その美しい風景と、海から運ばれる潮風に心を奪われることでしょう。



エゾカンゾウ

■基本情報(R7.3)

原生花園指定年：昭和55年
住 所：国道232号と日本海の海岸沿い
見 頃 時 期：春(6月中～7月上旬)